

～チビとの思い出～



濱崎 俊明



私が小学生の頃、近所から生まれたての雄犬を1匹頂いて育てました。犬の名前は「チビ」。生まれたてで小さかったので「チビ」と名付けました。最初はとても可愛かったのですが、次第に大きくなってくると自分より早く走るようになり犬を引っ張るのではなく犬に引っ張られてしまうくらいに成長しました。時には首輪が切れ1日中脱走して見当たらなくなったこともありましたが、不思議とおなかが空いたのか足を引きずりながら我が家へ帰ってきたこともありました。7年も一緒にいれば家族の一員のように感じました。病気で亡くなった時はとてもつらく寂しかったですが、唯一撮っていた写真は、今は懐かしい思い出の一枚となりました。今でも犬は大好きです！

### 私のつぶやき

～休日の楽しみ～

中島 大吾



わたしの休日の楽しみの一つは、一番下の娘(3歳)に、絵本の読み聞かせをすることです。本の読み聞かせは、子供の成長に良い影響があると聞いたので、図書館で絵本を借りて読んでいます。絵本を読むと子供が喜ぶので、とても嬉しいです。

そして、自分自身も懐かしい本など出てきて楽しい気持ちになります。しかし最近、上の兄弟の影響で、スマホの子ども動画サイトを見ることが増え、それに夢中になりつつあります。情報が氾濫する時代なので、仕方ないですが…。これからも、スマホに負けないように楽しく絵本を読んでいきたいと思えます(笑)



# かけはし

Vol.38  
秋号

2018年10月



六日市では木々が色づき始めました。もうすぐ紅葉の季節ですね(´▽`)

稲刈りのシーズン到来です！！



## 10～12月の税務・お知らせ

- ・10月…社会保険(厚生年金)料率の変更
  - ・11月…所得税 第2期分予定納税額の納付
  - ・12月…給与所得の年末調整
- いよいよ年末です。確定申告の準備を！！

### お休みカレンダー

2018年 10月							2018年 11月							2018年 12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3							1
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		23 30	24 31	25	26	27	28	29

わたしたちは、たくさんの「ありがとう」を集め、日本の中小企業を元気にします！

過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号  
 TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674  
 E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp  
 HP http://annokaikei.com

こんにちは、安野広明です。いつもニュースレター「かけはし」をお読み下さり、誠にありがとうございます。



代表取締役  
安野 広明

今年の夏は、豪雨や地震や台風によって、全国各地で大変な被害が発生しました。被災された方々にお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈りいたします。さて、去る9月14日には、毎年恒例のビジネスプラン特別講演会がございました。お陰様で今回も、400名近い方々にご参加下さり、大盛況に終えることができました。講師の境野勝悟先生やお出かけ下さった皆様に、心より感謝いたします。また、同封のチラシにもございますように、来年の1月3日に、弊社の地域貢献活動である「コメディ・クラウン・サーカス」を開催します。

「冬休み、遊びに行く場所が少ない地元の子供たちに、親子3世代で楽しめるコメディ・クラウン・サーカスというイベントを通じて、ご家族と一緒に地元で楽しい思い出をつくらせたい、ひいては、愛郷心(=故郷を愛する心)を育んでもらいたい」という想いで、毎年お正月に弊社で主催しています。ここで、ご感想の一部をご紹介します。「サーカスというものを初めて見たのですが、初めてがこの公演で良かったです(12歳)」「子どもが半年前から楽しみにしている、今後も続けて欲しい(36歳)」「正月に、家族3代が楽しく過ごせるサーカスは、素晴らしい!(80代)」など。今回で4回目となりますが、過去には満員御礼となった人気イベントですので、チケットはお早めにお買い求め下さい!

それでは今月号も、どうぞよろしくお願い致します!

## 「停滞期」は、次なるブレークスルー(=成長)への準備期間

初めて鉄棒で逆上がりができる時のことを憶えていらっしゃるでしょうか? 何度トライしても体が回る前にお尻から落下し、両手は豆だらけになり、すでに逆上がりできている友人を横目に見ては、「なぜ自分にはできないのだろう」と思い悩む日々…。それがある瞬間、ちょっとしたコツを掴むことで、体がぐるりと回転します。そして、一度できてしまえば、いままでの悩みが嘘だったかのごとくみるみるうちに上達し、自分が一気にレベルアップしたかのような錯覚を覚えるものです。また、この感覚は、自転車に1人で乗れるようになった瞬間についても同じ。一度、コツを掴んでしまえば(=ブレークスルーすれば)、あとは一気に上達し、1人で乗れなかった過去の自分が嘘のように感じたことでしょう。

実は、ここでいう逆上がりや自転車ができるようになるまでの成長のプロセスは、仕事に置き換えてもまったく同様です。

つまり、人は、時間に比例して右肩上がりの線を描くように成長するのではなく、いくら頑張っても成長を実感できない、(まさに上記の何度やっても鉄棒でお尻から落ちたり、自転車でこけたりするような)停滞期を必ず経験するということ。

それが、ある時、ブレークスルーの瞬間がやってくると、いままで頑張ってもできなかった仕事ですんなりとできるようになるのです。ここで何よりも重要なのは、停滞期の途中で諦めないことだと思います。諦めたらそこで、試合終了。逆上がりができるようになる前に別のものに手を出して、できないまま中途半端に終わってしまう子供のようなものです。

まあ、停滞期が何年も続けば、しんどのいのも分からなくはありませんが、「石の上にも三年」というように、とりあえず3年くらいは、諦めず、手を抜かず、目の前の仕事に打ち込んでみてはいかがでしょうか。

ブレークスルーポイントは、案外、もう目の前までやってきているかもしれません。

## 第28回ビジネスプラン特別講演会を開催いたしました。

9月14日(金)、「日本のこころの教育」というテーマで境野勝悟先生にご講演頂きました。雨の中にもかかわらず、今年もたくさんの方がご参加下さいました!



東洋思想家の境野勝悟先生。



400人近い方が熱心に聞かれました。

参加された方のご感想です。

- ・こんなに素敵な講演を聞いたのは初めてでした。
- ・普段なにげなく使っている日本語ですが、本当の意味を理解して使うと感じが違うなと思いました。
- ・改めて、言葉の重みを感じさせていただきました。
- ・数多くの新しい発見がありました。家に帰ったら、子供たちに話したいです。

## セミナー紹介

### 苔玉教室を開催いたしました。

7月27日(金)、弊社にて、株式会社正直屋 ガーデンコーディネーターの田中頼子先生をお招きし、苔玉教室を開催しました。参加された皆さんは、時間を忘れて楽しんでいらっしゃいました。苔玉は誰にでも簡単につくれる上に、とても癒されます!(^\_^)



講師の田中先生です!



## 本の紹介



### 『チーズはどこへ消えた?』

著者: スペンサー・ジョンソン

この本は、2匹のねずみと2人の小人が主人公の書籍です。2匹のねずみと2人の小人は迷路の中に住みチーズを食べて生活しています。それぞれ性格が違いチーズがなくなってもそこに居続ける者、なくなったためすぐに探しに行くもの、なくなる前になくなる事を予想し行動する者など様々でした。この物語では、チーズは私たちが人生で求めるもの“仕事、家族、財産、健康、精神的安定…等々の象徴”であり、迷路とは、チーズを追い求める場所“会社、地域社会、家庭…等々の象徴”と定義づけられています。シンプルな物語ではありますが、環境の急激な変化にいかに対応すべきかを考えさせられる内容でした。



永戸良宗

## 「やる気」は後からついてくる」



「やる気」というのは、自分の内側から滲み出てくるものであって、それが「行動」へとつながっているというのが、一般的な理解だと思います。つまり、「やる気」が先、「行動」が後の順番です。

しかしながら、例えば、部屋の掃除一つとっても、最初は嫌々始めたことが、やっているうちに、いつの間にか時間を忘れるほど夢中で掃除していたなんて経験は、誰にでもあるはず。

したがって、必ずしも「やる気」が先とは言い切れない気がしています。

この点、脳科学の池谷裕二氏は、「やりはじめないと、やる気は出ません。脳の側坐核(そくざかく)が活動するとやる気が出るのですが、側坐核は、何かをやり始めないと活動しないので。」とおっしゃっており、この説明に基づけば、「行動」が先、「やる気」が後となりそうです。

結局のところ、「鶏が先か、卵が先か」のように、「やる気」と「行動」のどちらが先とも言えないのが実態であって、そもそも「やる気」に頼ること自体が間違っているのかもしれない。

そういう意味では、成果を上げ続ける人というのは、いつも「やる気」に満ち溢れている訳ではなく、「やる気」があろうがなかろうが、具体的な「行動」を起こしている人なのではないでしょうか。

どんなに仕事が億劫な時でも、とりあえず入社して机に座り、パソコンを立ち上げる、どんなに人に会うのが憂鬱な時でも、とりあえずお客様のところに足を運んでみる、どんなに先送りにしたいことでも、とりあえず資料に目を通してみる、どんなに面倒臭くても、とりあえず本を手に取り、開いてみる…みたいな感じで。

「やる気」に頼らず、具体的な「行動」にフォーカスしてみてもいいかもしれません。

きっと、「やる気」は後からついてくるはずですよ。

## 「努力の成果を生み出す鍵は、“P”と“C”にあり」



仕事に従事する中で、努力をしていない人なんていません。少なからず「自分なりに努力している」はずですよ。

ただし、同じ努力でも、実際には、成果を出せている人と、そうでない人とに分かれるのは事実。そして、もしかすると後者は、努力が空回りしているか、または、努力しているつもりになっているだけかもしれません。

では、どうすれば、努力によって成果が得られるのでしょうか？

この点、努力した先にある未来の自分の姿を強くイメージする(=目標設定)のはもちろんのこと、鍵となるのは、しっかりとPDCAサイクル(Plan → Do → Check → Action)を回すことです。

とりわけDo(実践)する前のPlan(準備)と、Do(実践)した後のCheck(振り返り)を、いかに手を抜かずに繰り返しているかが重要となります。

そしてその際、自分の記憶に頼り、頭の中だけでPとCをやろうとしてもうまくいきません。

なぜなら、人の記憶ほどいい加減なものはないからです。

そこで大事なことは、面倒臭くても、PとCを紙に書き出し、見える化すること。実は、こういった(PとCの)取り組みは、プロの世界で長きに渡って活躍しているスポーツ選手や俳優さんほど、陰で地道に行っているそうです。

まさに、表からは見えない、隠れた努力ですね。

どうせやるのならば、成果につながる努力にこだわりたいもの。そのためにも、P(準備)とC(振り返り)に、力を入れてみてはいかがでしょうか。

# 「講演会で変わる人と変わらない人の差」



同じセミナーや講演会に参加しても、その後、変わる人と、いままでと全く変わらない人とがいらっしゃるものです。両者の差は、一体、どこにあるのでしょうか？

それは、聴いた直後に、何らかのアクションを起こしているかどうかだと思います。

例えば、講師先生がすすめたことをやってみる、すすめた本を買って読んでみる、すすめた映画を視てみる、すすめた場所に行ってみる、などなど。とにかく、それなりの経験と実績がある方(=講師先生)がすすめたものは、できる限り自分の中に取り込もうとする姿勢が大事です。

そして、その際、自らの価値観や常識というフィルタを通す必要はありません。「いままでの自分の常識からすれば、ちょっと…」と思えることでも、「これも何か意味があるのかもしれない」と捉え、「えい、やー！」でアクションを起こしてみるべきだと考えています。そうすることで、十中八九、世界観が広がることでしょう。

このようなアクションの差は、1度だけならまだしも、セミナーや講演の都度、一方は少しずつ世界観を広げ続け、他方はいつまでも自分の価値観や常識の殻に閉じこもったままだとすれば、一定期間の経過と共に、その差は歴然としたものになるのは想像に難くありません。

まあ、どちらの人生を選ぶのも、本人の自由なのですが…。

少なくとも私は、せっかくお金と時間をかけて講演を聴くのであれば、それをきっかけに視野を広げていった方が、より豊かな人生を送れると信じています。

## < 安野からのおすすめコーナー >

\*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただくと幸いです！

🍄 自己啓発書「日本のこころの教育」(境野勝悟 著) 🍄

今年9月の特別講演会でご登壇いただいた境野勝則先生のご著書です。「日本はなぜ『日本』というのか？」「日本の国旗はなぜ『日の丸』なのか？」「『さようなら』の意味は？」「『お父さん』や『お母さん』にはどんな意味が込められているのか？」われわれは、日本人であるが故に、日本的なものの根源について、かえってその意味や成り立ちに無自覚なままになっています。読み終わった後、日本人であることを誇りに思える、感動の1冊です。

🍄 ビジネス書「一発屋芸人列伝」(山田ルイ53世 著) 🍄

世の中から「消えていった」芸人たちのその後の人生を、自らも「一発屋」を名乗る著者が追跡取材していきます。ブレイク終了後、時代に翻弄されつつも、必死に芸に生き続けている芸人たちの姿に、勇気をもらいました。それとなく読み始めたのですが、「一発屋」が「一発屋」を取材するという構成の斬新さと、著者である山田ルイ53世の華麗な文章力によって、引き込まれること間違いなしです(笑)。

🍄 小説「ソバニイルヨ」(喜多川泰 著) 🍄

周りの目ばかりを気にして日々過ごしている少年が、AI(人工知能)を搭載したロボットとのかかわりを通じて成長していくストーリー。私は喜多川作品をすべて読んでますが、この作品も、あらゆる年代の方に読んでいただきたい本です。ちなみに喜多川先生には、3年前、次世代リーダーの会主催の講演会でご登壇いただきました。今後の作品にも、期待が膨らみます！

🍄 映画「ニュー・シネマ・パラダイス 完全オリジナル版」

(監督・脚本 ジュゼッペ・トルナトーレ) 🍄

言わずと知れたイタリア映画の名作です。戦後間もないシチリアの小さな村で、唯一の娯楽はパラダイス座という映画館。その映画館を舞台に、少年と映画技師の心の交流が描かれています。映画の中で流れる美しいメロディは、感動を大きくすると共に、見終わった後の余韻として残ります。